

# ユーザーレポート User Report

ゼロ  
0の証明

「もう大丈夫。お疲れ様、親父」ハンドルを置く日に、後悔はない。  
アルコールインターロックが役目を終えた日。  
～飲酒運転の不安を乗り越え、家族で踏み出した新しい明日への一歩～

個人

誰にとっても、親の老いと向き合う時期はいつか訪れます。しかし、そこに「お酒」と「車の運転」が絡み合ったとき、家族の心配は計り知れないものになります。今回、宮崎県にお住まいの小林様(仮名)のご家族にお話を伺いました。独り身になったお父様の飲酒運転を防ぐため、東海電子の「アルコールインターロック」を導入。その決断が、最悪の事態をいかに防ぎ、家族にどのような安心をもたらしたのか。同じ悩みを持つ方々へ、その歩みを共有します。

## ご利用機器

カメラ付き  
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



## 崩れていく日常

～母の死と、お酒に逃げる父の姿～

お父様は現在79歳。かつては会社員として働きながら兼業農家を営み、長年、軽トラックを自らの足として実直に生活してこられました。しかし、その平穏な日々は2022年2月、長年連れ添った最愛のお母様を亡くされたことで一変してしまいました。

## 埋められない孤独と加速する飲酒

家族の大きな柱を失い、突然の独り身となったお父様の喪失感は想像を絶するものでした。その深い寂しさを埋めるかのように、飲酒量は日ごとに目に見えて増えていきました。定年退職後は、地域の方々と集まってお酒を飲む「農家飲み」も増え、お酒中心の生活へと変わっていったのです。

## 「車社会」という残酷な現実

宮崎という土地柄、日常生活に車は欠かせません。近隣に歩いて行ける店もなく、何をしてもハンドルを握らざるを得ない環境が、さらなる悲劇の火種となりました。日中から焼酎を飲み、そのまま軽トラックを運転してしまう。その危うい姿に、家族の不安は募る一方でした。

## 男兄弟3人の葛藤と決断

家族構成は全員男性であり、息子たち3人が連携を取りながらお父様に向き合う日々が始まりました。かつて一家を支えた父の威厳が失われ、お酒に溺れていく変わり果てた姿。そんな父をどう支えればよいのか、息子たちは深く傷つき、答えの出ない問いに悩み抜きました。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

## 届かない声、深まる絶望

息子たちは何度も、時に涙を浮かべて「もうお酒はやめてくれ」と注意を重ねましたが、頑なになったお父様の心には響きませんでした。糖尿病という持病を抱えていながらも、酒量は一向に減りません。精神科への受診も試みたものの、本人のプライドもあって治療は長続きせず、家族は出口の見えない深い絶望感のなかに取り残されていました。「いつか誰かを巻き込んで、父を人殺しにしてしまうのではないか」そんな、夜も眠れないほどの恐怖に苛まれる日々の中、小林様たちは2022年6月、最後の手段として、アルコールを検知するとエンジンがかからない「アルコールインターロック」の導入を決断したのです。

## 機械がもたらした、束の間の「安らぎ」

導入にあたり、お父様は「酒を飲むなど強制されるくらいなら、これ(機械)を使う」と、家族が提示した厳しい条件を渋々ながらも受け入れました。



## 言葉を越えた客観的なルール

最愛の妻を亡くし、話し相手もない静かな家で独り、募る寂しさをお酒で紛らわせる。そんなお父様の心身を案じ、誰よりも身近にいる息子たちが口を酸っぱくして注意を重ねることは、お互いにとって身を削るような苦しみでした。家族が言葉を尽くせば尽くすほど、それは「小言」や「束縛」としてお父様のプライドを傷つけ、感情的なぶつかり合いへと発展してしまいます。しかし、アルコールインターロックという機械は、ただ無機質に、そして客観的に数値を測るだけです。アルコールが検知されれば、どれほど本人が望んでも物理的にエンジンはかかりません。この妥協のない絶対的なルールが、息子たちとお父様の間で繰り返されていた不毛な争いを劇的に減らし、親子の絆がこれ以上壊れることを食い止める大きな役割を果たしました。

## 4年間、命と心をつないだ「砦」

飲酒運転を心配し、何よりもその体を案じてくれる家族の声が届かなくなってしまう孤独は、計り知れないほど深いものです。その絶望に近い状況のなかで、アルコールインターロックは唯一、お父様と家族の間に橋を架け、安堵をもたらす存在となりました。

結果として、このシステムは4年もの間、お父様が飲酒運転によって誰かの人生を奪い、自らも重大な過ちを犯すことを防ぎ続けました。家族にとって「機械が付いているから大丈夫」と信じられることは、明日をも知れぬ不安に苛まれる日々のなかで、心の平穏を保つためのたった一つの、そして最後の手だてだったのです。

## 予期せぬ事故と、家族の絆が導き出した真実

それから約4年が経過した2026年1月。冬の寒さが身に染みるある日のこと、お父様は慣れ親しんだ畑で軽トラックを横転させる事故を起こしてしまいました。幸いにも他者を巻き込まない自損事故でしたが、駆けつけた息子たちが目にしたのは、変わり果てた父の姿でした。

## 母がいたらという悔しさと、気づけなかった痛み

病院での精密検査の結果、事故の直接的な原因は飲酒ではなく、突発的な「脳内出血」であったことが判明しました。この事実は、息子たちの心に新たな刃を突き立てました。「もしお母さんが生きていたら、お父さんの小さな異変にすぐ気づいてあげられたのではないか」。常にそばで寄り添い、誰よりも父を理解していた母がいれば、これほどの事態になる前に父の病を見つけ出し、痛みを分かち合っていたはずだという、どうしようもない悔しさがこみ上げました。働き盛りの息子たちがそれぞれに生活を営むなかで、独り身の父が抱えていた心身の変調を見逃してしまったという自責の念が、彼らの胸を締め付けました。



※写真はイメージです

## 3ヶ月の入院生活と、見えてきた父の素顔

お父様はそのまま3ヶ月に及ぶ長期入院を余儀なくされました。病室で力なく横たわる父を前に、息子たちは改めて、父が背負っていた孤独の重さを思い知らされました。もし、4年前に断腸の思いでインターロックを導入し、飲酒運転の習慣を断ち切っていなければ、この事故の際、家族は「またお酒を飲んで運転したのではないか」という疑念と後悔に、一生苛まれていたかもしれません。

## 新たな門出—ハンドルを置き、次の一步へ

3ヶ月に及ぶ懸命な治療とリハビリを経て、お父様は病院を退院し、今後は特別養護老人ホームへ入所することとなりました。この決断は、お父様の安全と、これからの穏やかな生活を最優先に考えた、息子さんたちなりの精一杯の愛情の形です。

## 愛車との別れと、役目を終えたインターロック

退院に伴い、これまでお父様の生活を支え、楽しみでもあった軽トラックの運転や、汗を流した畑仕事からは、一度距離を置くことになりました。それに合わせ、4年間にわたって家族の安心と命を守り続けてきたアルコールインターロックも、その役目を終えて取り外されることになりました。

かつては「お酒を飲んで運転したら……」という恐怖の象徴だったこの機械は、最後には、お父様が誰かを傷つけることなく無事に次のステージへ進むための、誇らしい「守り刀」となっていました。



# ユーザーレポート User Report

ゼロ  
0の証明

個人

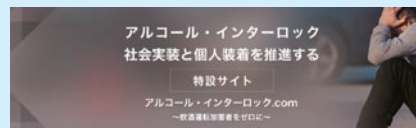
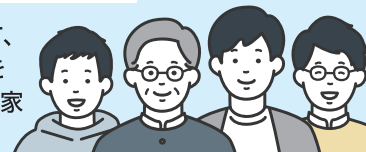
## 父への感謝と、未来への願い

息子さんたちの胸のなかには、今、お父様への溢れるばかりの感謝があります。会社員として、そして兼業農家として、朝から晩まで泥にまみれて働き、男兄弟3人を立派に育て上げてくれたその背中。お母様亡き後、孤独や病と闘いながらも、今日まで生きていてくれたこと。ハンドルを置くことは、お父様にとっては寂しいことかもしれません。しかし、これからは「誰かのために」と気を張る生活ではなく、自分自身のために、新しい場所で小さな楽しみを見つけ、穏やかな時間を過ごしてほしい。それが、残された息子さんたちの切実な願いです。



### 取材ご協力

家族を守る方法の手段として、  
アルコール・インターロックを  
導入された小林さん(仮名)ご一家



東海電子WEBサイト  
【アルコール・インターロック.com】  
<https://alcohol-interlock.com/>

### インターロックを卒業される小林様へ

小林様、そしてご兄弟の皆様。この4年間、本当にお疲れ様でした。導入当初の「父を疑わなければならない」という苦しみや、言いようのない不安。それらを一つひとつ乗り越え、今日という「卒業」の日を迎えられたことを、私たちも心よりお祝い申し上げます。アルコールインターロックは、お父様の自由を縛るためのものではなく、お父様が築き上げてきた人生の誇りを守るためのものでした。そして何より、離れて暮らすご家族が、心からお父様を案じ、信じ続けるための「架け橋」だったのだと感じています。これからお父様はハンドルを置き、新しい生活を始められます。もう、誰かを傷つける不安に怯える必要はありません。インターロックは役目を終えますが、この4年間で再び結ばれたご家族の強い絆は、これからもお父様の穏やかな毎日を支えていくことでしょう。誰よりも働き者で、息子さんたちを立派に育て上げられたお父様。これからは、ご自身のために、ゆったりとした豊かな時間を過ごされますよう、心より願っております。

### LINE公式アカウント

大切な人の飲酒運転で悩まれていたら…  
いつでもLINEで  
ご相談ください!

@700xyfip

